

困難な問題を抱える女性への支援

“なんとなく生きづらい”を“たしかな支援”につなげていく
豊島区の若年女性支援

すずらんスマイルプロジェクト

～ひとりで抱え込まなくてもいい。その”なんとなく”を、ひとりにしない。～

令和8年9月2日



豊島区男女平等推進センター
(すずらんスマイルプロジェクト事務局)

清水 美希

すずらんスマイルプロジェクトの概要①



■設置日 令和3年1月29日

■ミッション

若年女性の「なんとなく生きづらい」を「たしかな支援」につなげ、孤立させない、誰一人取り残さない社会を目指す。

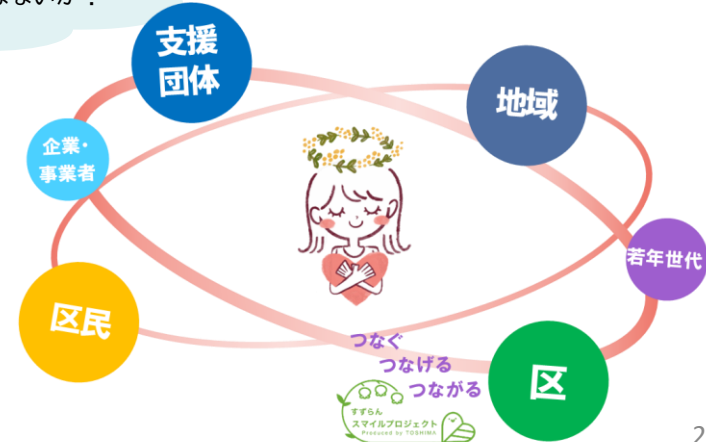
■設置の経緯・目的

○コロナ禍による不安定な社会情勢の中、10代、20代の若年女性が社会的に孤立し、貧困、虐待、自殺、妊娠等の課題が顕在化。
○「生きづらさ」が重篤化する前に、支援につなげたい！ しかし、豊島区の相談窓口にも、若年女性からの相談は多くない。

活動の
方向性

- ・若年女性は、どこで・どのように・抱える問題と向き合っている？
- ・区の相談員の言葉のかけ方や、対応の仕方に問題はないか？

- 分野にとらわれず、**全庁横断的に連携**し、スピード感をもって、豊島区ならではの対策を実行する。【人材育成・情報発信・理解促進】
- 民間支援団体や企業、学校等との連携**を強化し、「チームすずらん」でプロジェクトを推進する。【多様な主体との連携・ネットワーク強化】



●●● すずらんスマイルプロジェクトの概要②



■プロジェクトメンバー

- 区長直轄の**庁内組織横断プロジェクト**として位置づけ。
- 対象とする女性たちと同世代の目線を取り入れるため**若手女性職員**をはじめ、**管理職**、**男性職員**など様々な部署、様々な職層の職員が参加。
- 令和8年度は**80名で活動中**(うち管理職38名)。
→チームに分かれ、活動(とどける、はぐくむ、つながるチーム)

★区長がリーダー！
★若手から管理職まで、
庁内横断で活動
★男性職員も参加！



■プロジェクト名の由来

- すずらんの花言葉「**再び幸せが訪れる**」「**純粹**」「**希望**」。
- 下を向いて咲くのは、おしべやめしべを守るため。→ 自分を大切にしているということ。
- 北海道でも育つほど、寒さに強く、群生し、毎年花を咲かせる。→ 仲間を増やすことを連想させる。
- 若い女性が仲間を増やしつつ、**希望をもてるよう、願いを込めて**「すずらんスマイルプロジェクト」

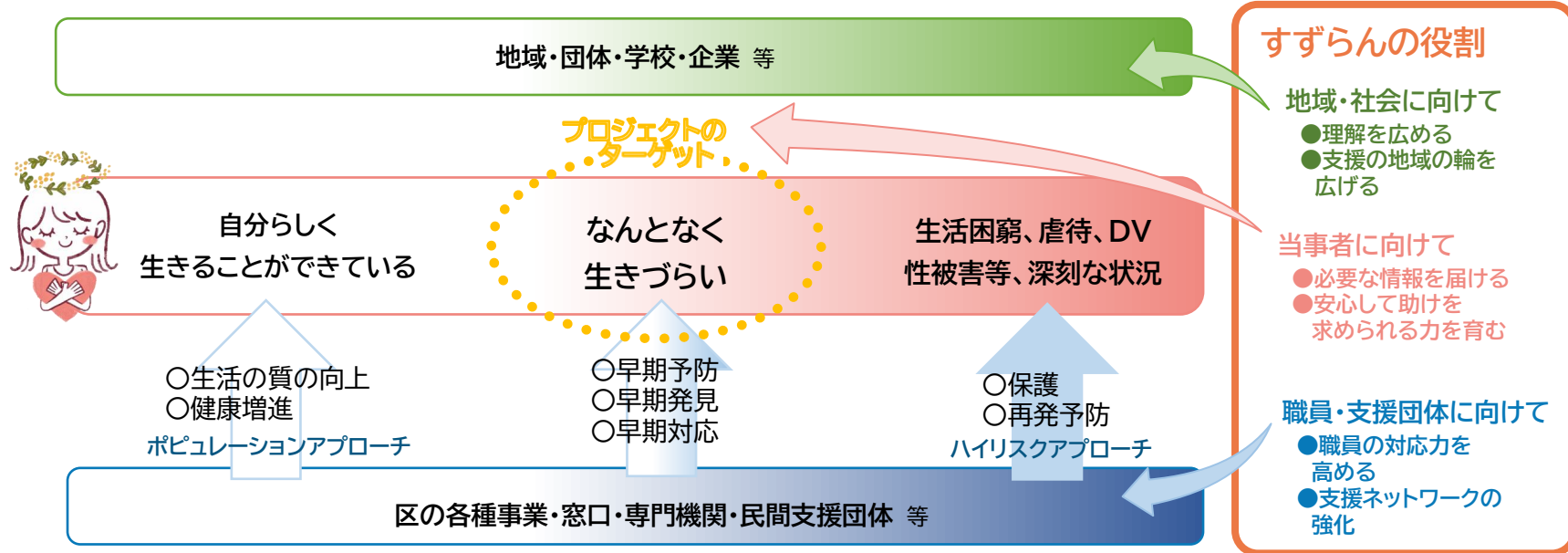


プロジェクトの役割・ターゲット

- ・生活困窮、虐待、DV、性被害等、深刻な状況に陥る前の状況にある
- ・苦しさの原因が何であるか表現しづらい
- ・「さみしい」「つらい」「居場所がない」「眠れない」・・・等の悩みがある
- ・支援の手が届きづらい

「なんとなく生きづらい」を抱える10代・20代の若年女性

ひとりで抱え込まなくてもいい。
その”なんとなく”を、ひとりにしない。



プロジェクトの推進体制

とどける

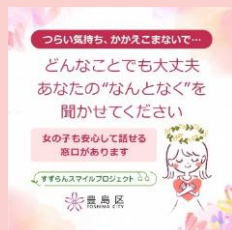
チーム

コンセプト

とにかく伝えよう（“届ける”を形にする）！

【アプローチ先】

10代・20代の若年女性



【ミッション】

- 「知らなかった」を減らす
- 受援力を意識した届ける情報発信
- 自己肯定感・エンパワーメントを高める
「助けを求めている」「自分の人生を選んでいい」「声をあげていい」
→受援力を育てる、人を頼るスキル

つながる

チーム

コンセプト

理解者を増やす！

【アプローチ先】

区民、企業、団体、学校、地域など



【ミッション】

- 周囲の人に、当事者の背景や困難について知ってもらい、味方になってもらう
- アクティブバイスタンダーを増やす

はぐくむ

チーム

コンセプト

つなげられる人を育てる（職員のレベルアップ）！

【アプローチ先】

メイン：区職員（男性管理職含む）
サブ：民間支援団体



【ミッション】

- 職員の対応力向上
- つなぐ力の底上げ「気づく・受け止める・つなぐ」力を育てる
→「つながった先の質」を高める
→安心して相談できる受け皿を整える

事務局

【ミッション】

- 支援につなぎ、プロジェクトを支える
 - ・プロジェクト全体統括・チーム間調整
 - ・区内外の相談窓口・民間団体との連携
 - ・企業、すずらんサポーター等との連携
 - ・調査・エビデンス整理



●●● 主な取組み①（情報発信、様々な連携）

“行政っぽくない”情報発信

・当事者目線による相談リーフレット等の作成、ホームページの運営

・SNSやYouTubeを活用した情報発信、ターゲティング広告

インプレッション数
約190万回(R6・7)



【ホームページ】



【SNSを活用した
ターゲティング広告】



【相談リーフレット】

生理の貧困対策

これまで
約21万枚配布

- ・相談窓口等での生理用品の常設配布
- ・区立小中学校での生理用品の配布
- ・無料生理用ナプキン提供サービスOitrの導入 **自治体初！**
- ・男性管理職を含めた職員を対象に「女性の健康セミナー」の開催 等

当事者世代との連携

- ・学生のアイデアを形にした啓発物の作成や情報発信
- ・学生と連携したPR活動 等



【PRカード】

学生アイデアで生まれた
キャラクター「す～ずう～らん」とショート動画

企業や地域団体等との連携

- ・プロジェクトの周知や情報発信
- ・専門性を活かした連携
 - 産婦人科に行ってみたレポ
 - 女性の健康セミナー
 - 女の子のからだのお悩み相談コーナー 等



サポーター
39団体・8名

●●● 主な取組②（庁内連携・人材育成）



プロジェクト自体が組織横断

R8年度は80名が参加！
（うち管理職38名）

区長直轄のプロジェクトとして、若手から管理職まで様々な年代や職層、様々な部署の職員がメンバーとして参加。

- 様々な部署の管理職がプロジェクトにコミットしている。
- 様々な部署の職員が、本来業務とも結びつけ、双方の取組を広げられる。

すずらん連絡会（庁内相談員連絡会）

各部署の相談窓口をもつ13の部署の相談員による事例検討や情報共有を行う連絡会。年3回開催（うち2回はすずらん・ネット会議実務者会議として開催）。

- 相談員同士の顔の見える関係づくり。
- 各相談窓口の業務内容の把握など、相談員のスキルアップ。

職員研修

生きづらさを抱える若年女性の理解促進や職員のスキルアップのため、管理職、男性職員、相談員向けなどの様々な研修を実施。研修内容により、民間支援団体も参加。

【実績】

- ・届けたい人に支援を届けるために～自治体だからできること
- ・ピア・スーパービジョン～支援職のメンタルヘルスを守るために職場みんなでできること（相談員向け）
- ・マジョリティの特権を可視化する
～他人事から自分ごとへ（管理職向け）
- ・女性の健康セミナー（管理職・男性職員向け）

等



●●● 主な取組③（民間支援団体との連携・協働）



■ 生きづらさを抱える若年女性をつなぐ・つなげる 「すずらん・ネット会議」

※困難女性支援法に基づく「支援調整会議」を先行した
若年女性版の実践モデルとして設置 **自治体初！**

□ 概要

令和5年10月、区や民間支援団体間の必要な情報交換やそれぞれの強みを活かしたネットワークを構築することにより、制度や支援の手が届きにくい「生きづらさ」を抱える若年女性の置かれた状況や問題を早期に発見し、適切な支援につなげることを目的として設置。

本区の支援調整会議のひとつとして位置づけ。

〇年1回の代表者会議、年2回の実務者会議を開催。

□ 参加団体

R5当初は13団体。参加希望や参加団体からの紹介、区からの声掛けなどで参加団体数が増加！

※最も多いのが参加希望



民間

若年女性の居場所や相談、アウトリーチなどの支援を行う**21の民間支援団体**
（支援対象に若年女性を含む団体や、区内に活動拠点がない団体も含む）

行政

区の福祉部門や子ども家庭部門、保健所、教育委員会など**16の関係部署**
（代表者会議には部課長24名、実務者会議には相談窓口を持つ13の部署）
すずらんスマイルプロジェクトのメンバー



行政と民間の連携の重要性を再認識！

●●● 主な取組④（民間支援団体との連携・協働）



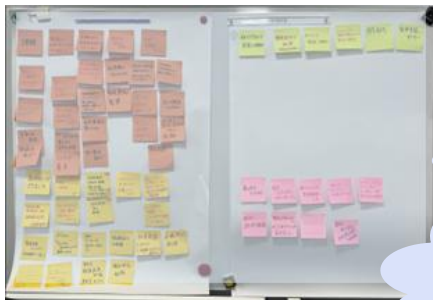
■すずらん・ネット会議（実務者会議）の事例検討

□概要

事例検討等を通じ、行政各部署や民間支援団体の強みや支援範囲を共有し、顔の見える関係づくりをさらに進めるとともに、連携可能な機関を把握することで、支援を「抱え込まなくてよい」ことを支援者や相談員が理解する場とする。年2回開催。

【民間支援団体からの提供事例】

- ・男女関係のトラブルに起因するケース
- ・長らく身分証がなく社会から孤立した女性の生活再建
- ・継続支援が困難な若年妊産婦のケース 等



それぞれの部署・団体が出来ること、工夫していること、地域の耳より情報等について、グループワーク

【参加者の声】

共通

- ・顔の見える関係ができてよかった。
- ・多機関との協働の方法を知ることができた。

民間

- ・行政機関の取り組みを知る機会があまりなかったので、大変勉強になった。
- ・ひとつのケースに対し、こんなにも支援者がいることに心強いと感じた。
- ・こういう機会が支援の底上げになると感じた。
- ・事例検討後、別ケースを実際に行政につなぐことができた。

行政

- ・民間支援団体の取り組みや支援について知ることができて、有意義な時間だった。
- ・民間の方との協働は欠かせないと思った。
- ・今後の業務に活かすことができると感じた。

●●● プロジェクトを通じて見えてきたこと ～今後の取組みに向けた視点～



○ 当事者へのアプローチ

- ・届く、伝わる情報発信
- ・予防的支援や教育(困難を抱える前からつながる)

○ 民間支援団体等との更なる連携・協働

- ・顔の見えるネットワークづくり、ハブとしての役割、持続可能な連携体制
- ・民間支援団体への支援(一自治体としてできること、できないこと:広域的な視点)
- ・住民票と居所の壁、当事者の年齢による壁(制度の課題)

○ 庁内連携の実効性

- ・職員の理解促進・人材育成(対応力・情報共有の質の向上)
- ・切れ目ない横断的支援

ご清聴ありがとうございました

